

## 別添資料 2

### 伊江御殿家関係資料

百四十六点

【所有者】 個人蔵

伊江御殿家は、第二尚氏第四代の国王尚清王の七男尚宗賢伊江王子朝義(1538～1586年)を祖とする尚家の分家の王族で、伊江家第十一世朝忠(後に朝直、1818～1896年)の代に琉球処分を迎えた。

伊江家は、歴代首里王府の要職を歴任したが、特に朝忠は、同治11年(1872)に維新慶賀使の正使として東京に赴き、また同年から光緒2年(1876)まで、摂政職を務めるなど首里王府の重職を担った。

本資料は、伊江家に伝来した文書・記録類145点及び墨跡1点の計146点で、文書・記録類は家譜類、履歴関係記録からなる記録類と、辞令書、生子証文、口上覚等からなる古文書類に大別される。

これらは琉球王国の王族における家譜及び家譜編纂に関わる文書・記録類がまとまって伝存する稀有な例で、伊江家の歴史のみならず、琉球王国の家制、職制、文化を知る上で充実した資料群として、政治史・文化史上等に価値が高い。

